

令和5年度（2023年度）第5回南大沢中学校区地域づくり推進会議 議事概要

| | |
|------|--|
| 日時 | 令和6年（2024年）3月16日（土） 9：30～12：00 |
| 場所 | 南大沢中学校 3階 家庭科室 |
| 出席者 | 参加者： 飯田、磯田、今泉、柿島、木村、佐藤、高津、高橋、田中（義）、廣瀬、廣田、福澤、宮武、吉村 見学者： 塩田、滝田 由木地域事務所長： 滝口 松が谷子ども・若者育成支援センター： 山田 子ども・若者育成支援センター統括担当： 山鹿 高齢者あんしん相談センター南大沢： 青山 はちまるサポート由木： 土屋 第一層生活支援コーディネーター： 今泉 経営計画課地域づくり担当： 伊東、三井、橋本、田中 エックス都市研究所： 田中、小市、松本、伊藤 |
| 配布資料 | 第4回南大沢中学校区地域づくり推進会議 議事概要（案） 第5回南大沢中学校区地域づくり推進会議資料 資料1 南大沢FRアンケート集計結果 資料2 第3回八王子市地域づくり推進基本方針改定懇談会 資料3-1 「地域づくり推進基本方針」改定に向けた推進会議参加者向けアンケート結果について 資料3-2 「地域づくり推進基本方針」改定に向けた推進会議参加者アンケート結果まとめ 資料4-1 八王子市地域づくり団体の届出に関する要綱 資料4-2 地域づくり団体会則（案） 資料5 南大沢中学校区地域フォーラム主な意見 資料6 南大沢中学校区地域フォーラム模造紙まとめ |

1 開会

経営計画課地域づくり担当より本日の流れの確認を行った。また、2月10日に開催した地域フォーラム参加者で、今回見学していただく方を紹介した。

2 事務局からの報告

(1) 地域フォーラムの開催について

（報告内容）

参加人数は38名（うち応募者23名、推進会議メンバー15名）という多くの方にご参加いただいた。

アンケートの主な感想としては、

- ・地域に居場所をつくりたい、人のつながりをつくりたいと考えている方に会えたことで力を得ました。
 - ・ぼんやりしていた課題やちょっと活用できそうなことが共有できて、次につながりそう！
 - ・今まで関わりのなかった方のお話もこのようなフォーラムでは聞くことができる。自分の興味・関心のあたるテーマ以外で活動される方の話がじかに聞けるのが非常に楽しく勉強になります。
- といったご意見をいただいた。

推進会議に参加もしくは見学してみたいかという問いに対しては、10名程の方に参加もしくは見学してみたいというご意見をいただいたので、会議の開催日等を案内している。

(2) 第3回八王子市地域づくり推進基本方針改定懇談会について

(資料2について説明)

- ・10月に開催した第2回懇談会では、新たな基本方針をとりまとめていく内容として、“地域づくりの必要性”をまず示したうえで、地域づくり推進事業のなかで何に取り組むかを明記し、“地域づくりが目指すもの”をゴールとして掲げていきたいということを説明。概ねご理解いただいた。
- ・特に、地域づくり推進事業の中身については、これまでに4つの中学校区で行ってきた推進会議の取組の検証に重きをおき、年末に行ったアンケートの結果なども反映し、まとめていく予定。
- ・第3回懇談会では、新たな地域づくりビジョンとして、「ゆるやかなつながりを大切に、地域をもっと好きになる！」というフレーズ提示。引き続き地域の皆さんにもご意見をいただきながら、「地域づくりって何？」に一言で答えられるフレーズを考えていきたい。
- ・第3回懇談会では、先ほどの3つの構成を新たな基本方針のなかでどのように組み立てていくかを示した。地域づくりの必要性としては、地域が抱える現状として、ゆるやかなつながりが求められているのではないか。地域でやりたいことがなかなかできていない状況があるのではないか。地域を知る機会に恵まれず、なかなか愛着が持てていないこともあるのではないか。こういったところを必要性として捉えつつ、市の施策として、まさにこの推進会議や今後立ち上げを検討していただく地域づくり団体をベースにしながら、<支える><つなぐ><掘り起こす>という3つの視点で行政から地域に対する支援策をまとめていきたいと考えている。
- ・必要性として示した現状が改善された先に、2040年に目指す地域コミュニティの姿として、フレーズにもあった「地域をもっと好きになっている」姿、「ゆるやかなつながり」が育まれている状況が達成できているのではないか。ということに記載している。
- ・第3回の懇談会では、主に市の施策の部分について議論をし、全体として新たな地域づくりビジョンや地域の担い手確保・掘り起こし、推進会議で取り組んだほうがよいと思われるアイデアなどについて、活発なご意見をいただいた。特に新たなフレーズについては、「自分たちが主語として認識できるフレーズで、地域づくりの取り組む意義がわかりやすい」といったご意見をいただいた。
- ・今後の基本方針見直しのスケジュールについては、市議会総務企画委員会の所管事務調査が令和6年12月頃に最終報告をまとめる予定となっており、その報告を受けて市の基本方針も最終調整、策定としていきたいことから、令和7年3月の改定を目指してさらに丁寧に議論を行っていくこととしたい。引き続き推進会議の皆様にも、ご意見・ご協力いただければと考えている。

(南大沢中学校区から参加している吉村氏から報告)

それぞれの地域の特色を活かし、それぞれの地域に合ったやり方で地域を楽しくできれば良い。
引き続き懇談会に参加し、南大沢のみなさんの活動を報告したい。

(3) 推進会議参加者を対象としたアンケートの実施結果

(資料3-1, 3-2について説明)

- ・全体的な推進会議参加者の年齢は、75～79歳が最も多く次に55～59歳が多い。
推進会議の構成として参加者の年齢層をどのように感じるかというところでは、ちょうどよいとは言えないが大半を占めており、若い参加者が必要ということが見てとれる。
- ・推進会議への参加理由は、市から依頼しているため、町会自治会や各種地域団体からの依頼が多い。

参加者の所属団体としては、町会自治会が 29 と 1 番多く、次に学運協・PTA 関係が多い状況。

- ・地域の取組が期待できるかどうかという問いでは、期待できるという方が多く、主な理由としては、「自分の住む地域を見つめなおす機会になる」、「新たな行政と地域のシステムを創るため」等がある。
- ・地域カルテと地域づくり推進計画の作成意義は地域別で意見が分かれたが、モデル地区では、あまり有意義に感じないが多く、みなみ野・南大沢地区では有意義に感じる方が多い。考えられる理由としては、プロジェクトの中でカルテを活用しようというところや、モデル地区の計画では、プロジェクトを何年にどうするという細かい計画になっていて苦しくなっていることなど。みなみ野・南大沢ではモデル地区の反省点を踏まえてプロジェクトを無理なくできるようにしている。
- ・中学校区の範囲の妥当性は、川口ではもう少し広い範囲がいいという意見もある。近隣の中学校区とも連携をしながら会議の取組ができるようにしていきたい。
- ・地域づくりに期待することは地域の担い手の掘り起こし・つながりづくりが全体的に 1 番多い。地域別で見ると、川口では八王子版地域自治の議論・検討・実行が多く、南大沢では、地域の活動団体や住民間における連絡調整が多い。地域ごとに求めるスタイルが違うので、行政のサポートも地域に合わせて柔軟にしていきたい。

3 推進計画の配布について

(市が配布予定の場所)

事務所、図書館、子ども家庭支援センター、保健福祉センター、本庁（経営計画課）、南大沢市民センター、はちまるサポート由木、高齢者あんしん相談センター南大沢

(推進計画の配布場所についてでた意見)

- ・町会で回覧
- ・南大沢中学校区内の学校
- ・生涯学習センター
- ・どんぐりサロン
- ・文化会館
- ・都立大学

4 令和 6 年度の進め方

(1) 年間開催日程について

(報告内容)

- ・事務局としては以下の 2 つを目標に開催したい

① 地域主体の会議運営

これまでは、市が主導でカルテ・計画の作成メインで会議を進めていたため

② プロジェクトの推進

具体的にどんな活動をするか無理なく進められるように検討したい

- ・アンケートで現在の開催頻度が適切という意見が多かったため、年 5 回会議を開催する予定で、年間開催日程を提示した。所属している団体の活動や地域イベントと重なっている場合は 3 月 22 日までに申し出るよう伝えた。

(主な意見)

- ・ 7 月 27 日は南大沢夏まつりと重なっている
 - ・ 9 月 28 日は南大沢市民センター祭りと重なっている
- ⇒主な意見を受けて、別日に開催できるよう調整し、後日提示すると伝えた。

(2) 役員会の開催及び役員を選出

(報告内容)

会議参加者がより主体的に運営ができるよう令和6年度から役員会を開催する。

全体会では参加団体間や行政との連携・情報共有等を行い、役員会では全体会運営のために、検討内容の調整・相談等を全体会の前に開催する。

役員は以下のとおり決定した。

- ・情報まどぐち 柿島氏、福澤氏
- ・憩いの場づくり 廣田氏、木村氏
- ・南大沢 week 宮武氏、田中(茂)氏

(3) 団体について

(報告内容)

推進会議資料 12 スライド

- ・推進計画にも掲載した内容になりますが、来年度本格的にプロジェクトを進めていくにあたり、改めて活動団体の位置付けや目的について説明させていただきます。
- ・まず、推進会議と活動団体の位置付けですが、推進会議は市が設置しているものになります。市設置の組織としてモデル地区で取組を進めるなかで見えてきた課題があり、それを解決するために行政の枠組みから出して任意の団体として取組をしようというのが活動団体になります。
- ・なぜ、行政の枠組みから出した団体を作る必要があるのかということですが、モデル地区で一番問題となったのが、活動収支の管理です。推進会議は市が設置した組織になるので、会則を制定して、団体として銀行口座を開設するということができないですし、お金を稼ぐことも難しい。また、市が市民活動団体等に出している補助金などについても、市が設置する組織の取組に市が補助金を出すということが成り立たないので、市の補助金を活用することもできない、という問題がありました。
- ・また、どこの推進会議でも担い手不足ということが課題としてあげられていますが、推進会議のような議論の場にはハードルが高くて参加したくないが、イベントなど、楽しそうな活動なら参加してみたい、手伝っても良いという人もいらっしゃると思います。地域活動に興味を持っている人が気軽に参加し、ゆるやかなつながりが持てる、そうした仕組の必要性もでてきました。
- ・そこで、資金的な面、また機動的な活動といった面から、より活動がしやすくなるよう、行政の枠組みから出して任意団体が設立できる仕組をつくりました。
- ・ここで、ご理解いただきたいのは、活動団体を設立すると、今の推進会議のような行政のサポートが無くなってしまわないか、という不安を持たれる方もいらっしゃるかもしれませんが、決してそういったことはありません。
- ・資料4—1「八王子市地域づくり団体の届出に関する要綱」をご覧ください。活動団体の届出に関する要綱になります。このなかで特に重要となるのが、第2条の「届出の対象となる団体」のところで、(1)～(6)で、当該中学校区における推進会議と連携を保ちながら地域づくりを推進することや、推進会議の取組を尊重したうえで地域づくり推進計画に基づく事業や取組等を行うこと、要するに推進会議とちゃんと連携して、推進会議の議論をもとにした活動をする団体が届出の対象になるということを記載しています。
- ・そのため、活動団体は、あくまでも推進会議と表裏一体、推進会議で議論された内容、将来ビジョンの実現につながる取組を行うことが団体の趣旨となりますので、推進会議の場で活動団体の取組状況について共有しますし、行政として補助金の申請方法や、関係所管課との橋渡し役といったサポートももちろん行っていきます。

- ・活動団体設立までの流れとしては、①推進会議の設置要綱に基づき、市が推進会議を設置し、地域の行動計画となる推進計画を策定します。今みなみ野ではこの段階になりますが、推進計画の策定ができれば、②のところで、推進会議参加者を中心として、推進計画など推進会議で議論した内容をベースに、活動やイベントを行うことができる団体を立ち上げていただくことをイメージしています。
- ・こうして、行政内部から出たところで活動を行える団体をつくることで、先ほどお話したような、銀行口座を開設できないといった問題や、お金を稼げないといった問題に対応できるようになります。また、市が設置するものではないので、参加者なども今よりも自由に、いろいろな人に参加してもらいやすくなると思っています。
- ・この団体を設立するにあたっては、その団体の構成など基本的なことを定める「会則」が必要となります。これは銀行口座を作るにあたって必要になるもので、モデル地区でも資料4-2として配布している会則案をもとに作成をしました。
- ・会則案の〇〇の部分や細かい内容については、地域ごとに検討する形になります。
- ・そして設立後、③市に届け出てもらい、④市が確認することで、市が設置する推進会議とこの団体との関係性が担保されて、市の支援も行いやすくなるというかたちになります。
- ・これが、市の考えている、これまでの推進会議の取組で見えてきた課題に対応するための仕組みです。この活動団体については、モデルの長房中学校区で先月設立され、川口中学校区では先日の推進会議で設立されました。
- ・南大沢については、これから役員会をはじめていきますし、取組も本格化していく状況です。加えて活動団体も立ち上げるとなると、皆さんの負担になってしまうのではないかという懸念があります。
- ・すぐに活動団体を立ち上げなければならないということではないので、特に資金的な部分ですぐに銀行口座を作った方がよいなど、必要になった場合にこの仕組みを使っていただければと思います。

(主な意見)

- ・市からの補助金はあるのか
⇒今はだせないが、補助金をだせるように動いている。
助成金となると条件が厳しい。
- ・モデル地区が団体を必要になった理由は
⇒資金の管理が必要になったため

5 プロジェクトの検討

各プロジェクトごとに来年度の目標について話し合いをした。

(各プロジェクトグループで述べた主な意見)

○憩い場づくり

目標「居場所の掘り起こし」

- ・まずは、居場所の洗い出しをして、マップに落とし込みたい
- ・子どもがいると様々な人が関わることが分かったので、保護者など交流がなかった人とつながり、居場所になればいい
- ・日常的にふらっと立ち寄れる場所があるといい

○地域をつなぐイベント

目標「南大沢夏まつりを今年もやろう」

- ・連絡協議会が主体で開催しているが、継続して運営していくことが厳しいという意見があり、実行委員会に関わるのはどうか
- ・今までの地域重視のやり方は変えずに、なるべくお金をかけない方法でできればいい
- ・秋に予定している柏木小の防災訓練とも関われば
- ・2つのイベントがうまくいけば、3年目の南大沢 week にもつながる

○情報まどぐち

目標「前半では要件定義をして後半に実行したい」

- ・会議の周知活動はできる
- ・八王子市と協力して企業や団体と連携したい
- ・表面的には楽しいサイトだが、有事の際にこれがあったから助かったというものにしたい

6 情報交換「みんなにシェア・みんなでシェア」

- ・高齢者あんしん相談センターの広報誌ができたぜひご覧ください。(高齢者あんしん相談センター)
- ・竹たま里山まつりは3月20日に堀之内こぶし緑地で開催。いろいろなパフォーマンスがあったり、食べ物の出店があるイベント。参加者の木村氏に参加していただいているイベントもある。(高齢者あんしん相談センター南大沢)
- ・4月27、28日にフラワーフェスティバル由木が開催される。由木地区の町会自治会・3つの市民センターに参加している19の町会自治会が運営している。事務局はふれあい財団。八王子祭り、いちょう祭りに並ぶ大きなイベント。(飯田氏)
- ・5月11、12日に三井アウトレットとイベントを行う予定で来週打合せをする。地域の人たちとつながりたいのでなにかやっていただきたいと言われている。ご協力いただけるとありがたい。(廣田氏)

7 閉会

次回の推進会議の日程確認を行った。

- ・第一回推進会議は、令和6年5月18日(土)9時半～12時、場所は南大沢中学校3階家庭科室で開催する予定。

以 上